輸送経済
THE YUSO-KEIZAI

3/31
平成21年
(2009)
(火曜日)
週刊

第2839号　昭和24年4月23日（第三種郵便物認可）

名糖運輸　関西物流センターが稼動

同社最大規模　西日本エリアのハブ拠点

2月に開設した「関西物流センター」
西日本エリアの業務拡大に向けたハブセンターとして期待される

名糖運輸（本社・東京都武蔵野市、滝澤昭社長）は、西日本のハブ拠点で同社最大規模となる「関西物流センター」を新設。二月十七日から営業を開始した。最新鋭なセキュリティーシステムや最新鋭の省エネ冷却システムを備え「食の安全・安心」だけでなく、「環境保全」にも配慮している。

最新設備で「食の安全・安心」守る

滝澤　昭社長

名糖運輸では、平成一七年に西日本営業部を立ち上げ、西日本エリアの営業体制の強化に努めているが、既存の関西DCや大阪DCの保管・仕分けなどのスペースが限界に達していたことから、収容能力の拡大とともに、業務を一カ所に集約して輸送の効率化を進めるため、総工費三十八億円をかけ「関西物流センター」の開設に踏み切った。

新設されたセンターは、近畿自動車道・摂津南インターチェンジの近くに位置し、大消費地を抱える関西の配送拠点として適した立地になっている。

規模は同社の中でも最大級で、西日本エリアの業務拡大に向けたハブセンターとして期待される。

最新の設備を取り入れ、二十四時間、三百六十五日稼働で、食品の鮮度を保つ品質管理と輸送体制の構築に取り組む。

センターの所在地は大阪府高槻市三島江一ノ七ノ二十八。

敷地面積は約一万七千平方メートルで、荷主の要望にあわせ別棟の倉庫建設を予定するなど、十分な保管スペースを確保している。

建物は三温度帯対応の複合物流センター。二階建てで、延べ床面積は約一万三千平方メートル。入出庫バースを三十基備え、入庫・出荷にも迅速な対応が可能なだけでなく、ドックシェルター周りには外気除去システムを導入、庫内温度安定化により品質向上に寄与している。

品質保持・環境に配慮した設備

延べ床面積の内訳は、ドライ倉庫が約七百平方メートル、チルド倉庫が約七千七百平方メートル、フローズン倉庫が約千八百平方メートル。

全室にインバーター冷凍冷却システムと最適容量制御による省エネ冷却システムを採用しているため、庫内温度の変化を抑えるだけでなく、CO_2の削減など環境面にも配慮している。

また、立体自動倉庫を導入したことで、固定棚に比べ二～三倍の格納効率を実現。ハンディターミナルの活用で検品時間の短縮と精度の向上を図り、作業効率、在庫管理レベルなどを大幅に向上させることに成功した。

このほか、セキュリティーを万全にするため、外部からの入室は、すべて事務所受付を経由することで入退出の管理を行う。さらに、各フロアの出入口には部外者の侵入防止のためのIDカードや、二十四時間監視のセキュリティーシステムを敷き、人的要因などからの「食の安心・安全」を守る。

徹底したセキュリティーシステム

顧客獲得に向け営業活動を強化

同施設では約二百七十人のスタッフが受注や仕分けなどを担当するほか、自社車両も約八十台用意。

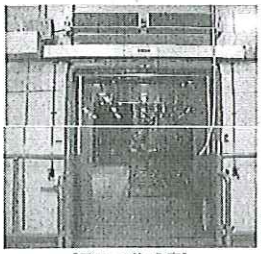
営業を強化することで、新規顧客の獲得にも力を入れる。

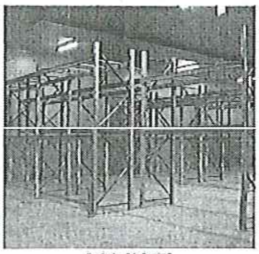
取引のある企業数は約百五十社。以前から取引のある大手食品会社が多数契約しているほか、すでに新規荷主との契約も進めている。

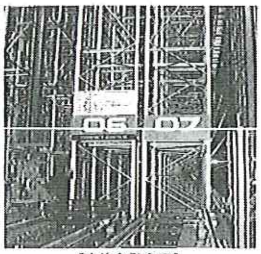
取扱商品はジュースやコーヒーなどの飲料、ヨーグルトやプリンなどの乳製品から豆腐、冷凍食品など多品種。外食産業向けに紙ナプキンや割りばしといったものの保管も行い、顧客のニーズに応える。

開設時点での稼動率は七割ほどだが、三年を目安に倉庫の稼働率を九割まで引き上げるとともに、配送の効率化を行い収支の改善を図る。

収支予想では平成二十一年度の売上高を三十五億円、経常利益が三億三千万円のマイナスと見込んでいるが、二十三年度には売上高を四十一億円、経常利益を一億円に転換する。


【フローズン倉庫】
FA（フローズン）ダクトの採用で、庫内の隅々まで冷気が届く


【チルド倉庫】
エコに特化したインバーターシステムにより、環境にも配慮


【立体自動倉庫】
固定棚に比べ2～3倍の格納効率を実現した

消費者ニーズに応える

名糖運輸は利益の確保とともに、「安全確保」を全社の年度行動スローガンとして掲げている。

食の安全はもとより、社会生活のあらゆる面において要求が高まっている「安全であること」に対して、物流業務をはじめ、企業活動のすべてにわたり安全を求めている。

その取り組みとして、トラックへのドライブレコーダーの装着、事業所内への防犯カメラの設置または増設、運輸安全マネジメントの構築、ISO認証取得の継続などを実施。企業活動の品質を高め、「CHILLED LINE MEITO」のブランド力向上に努めてきた。

安全確保が第一
CHILLED LINE MEITO
ブランド力向上へ

物流情報システムの構築による収支改善も〇七年からの三カ年計画で進めている。積載効率を考慮した配送ルートの見直しや受注体制、在庫管理、トレーサビリティー（全商品履歴管理）機能の向上など「八十四項目の収益改善を進めている」（滝澤社長）

金融危機に端を発した景気後退の波を受け、かつてない深刻な状況下での経営を強いられているが、滝澤社長は「局面を読むことも大事だが、とらわれすぎてはいけない。危機的状況下だからこそ、チャレンジしていく」と説明する。

品質の維持・向上とネットワークの拡大を同時に進める名糖運輸。その課題は容易ではないが、全国の消費者から食の安全と新鮮な商品へのニーズがますます高まるなか、同社が取り組むべき業務も広がっていく。

名糖運輸・関西物流センター概要	
所在地	大阪府高槻市三島江1-7-28
電話番号	072-659-2101
FAX番号	072-677-8301
敷地面積	17,036㎡
延べ床面積	12,844㎡
自動倉庫面積	1,288㎡
冷蔵庫面積	6,391㎡
冷凍庫面積	1,775㎡
常温庫面積	638㎡
事務所床面積	594㎡
出荷バース	30基

【トラックヤード】
30基のバースを備え、配送効率の向上を果たした